

JOTO Q&A

QUESTION AND ANSWER

城東高校へのご質問にお答えします

入学者選抜について

Q 高校入試について教えてください。

令和7年春の入試を例に挙げて説明しましょう。定員は320名で、2月の「特別入試」と「海外帰国生徒（海外生活が2年以上で、帰国後2年以内）のための入試」、そして3月の「一般入試」の3つが実施されました。特別入試は国際教養分野と音楽分野に分かれ、それぞれ2年次から国際教養学類、音楽学類に進む生徒のための入試です。海外帰国入試と一般入試で入学した生徒は2年次から4つの学類のどれを選ぶことも可能です。その他については次のとおりです。実技の過去の問題（一部）は、本校のホームページで見ることができます。

R6年度の場合	日程	募集人員	検査の内容等
特別入試 (国際教養分野)	2月 5,6日	30名	学力検査（国数英）、面接 実技Ⅰ（注1） 実技Ⅱ（注2）
特別入試 (音楽分野)	2月 5,6日	25名	学力検査（国数英）、面接 実技（新曲視唱）（注3） 演奏実技 （声楽または任意の楽器）（注4）
海外帰国生徒入試	2月5日	若干名	面接、口頭試問
一般入試	3月 11,12日	320名から 上記合格者を 引いた数	学力検査（国社数理英）、面接

（注1） 実技Ⅰ＝「聞き取った英文をもとに、自分の考えなどを英語で書く」

（注2） 実技Ⅱ＝「英文の音読、その後英語による口頭での質疑応答」

（注3） 中学校で学習する程度の演奏記号（強弱記号など）を含む、20小節程度の新曲課題

（注4） 声楽又は任意の楽器で5分以内の演奏（ただし、ピアノの場合はバロック、古典・ロマン派のピアノ作品の中から任意の曲を演奏する（緩徐楽章は除く）

校風について

Q 城東生の気質は？

「進取・協同」の校訓が示すとおり、何事に対しても前向きに取り組み、お互い協力し合いながら目標に向かってチャレンジする気風にあふれています。生徒たちは自主自律の精神を持ち、友人と切磋琢磨しながら自己を高めようと努力しています。学習に落ち着いて集中する姿勢で臨み、けじめのある集団となっています。また、全県学区の高校であり、毎年県下各地はもとより海外からも生徒が入学してくるため、多くの出会いがあり、新鮮な気持ちで高校生活を始めることができます。そのことにより、お互いを尊重し、相手の気持ちを大切に人間として成長することができます。

Q 施設・設備は充実していますか？

校舎の周囲にはたくさんの樹木が植えられ、緑豊かな環境が整っています。2カ所ある中庭は、吹き抜けの廊下と渡り廊下を観客席に見立てたイベントホールにもなり、コンサートやパフォーマンスなど多目的に利用されています。グラウンド横には雨天練習場があり、授業や屋外の部活動で活用されています。

本校独自の施設としては、生徒が昼食時間や放課後などに自由に利用できるコモンホールがあり、憩いの場となっています。さらに自習のためのラーニング室もあり、早朝、昼休み、放課後、土曜日、長期休業中と、多くの生徒に利用されています。

本校図書館は、蔵書の充実はもちろん、授業と連動した展示を積極的に行い、実際に授業でも年間200時間を超えて利用されています。よりよい探究学習をサポートするツールとして、本校生徒のみが利用できる「探究ポータルサイト」が開設されていて、一人一台端末で、いつでも新聞記事や先行研究の検索をしたり、イベント等に関する最新の情報を得たりすることができます。また、3DプリンタやMIDIキーボード、撮影スタジオ等の最新ICT機器を備えた部屋JOTOLAB（ジョトラボ）が整備され、生徒の興味関心に応じて自由に使えます。

Q 校則はどうなっていますか？

城東生は校則を最小限にとどめ、生徒自身が自らの行動に責任を持つことで、人間的に成長しようという「自主・自律の4原則」を受け継いできました。校則には一般的な禁止事項はありますが、生徒の自主的・自律的な判断と討議による決定を最大限に尊重して校内の「ルール」が作られています。不合理な点があれば生徒会執行部を中心にクラス討議→生徒総会の手続きを経て校則改定を提起できるようになっています。スマートフォン（携帯電話）についても、生徒による討議を経て、生徒自身でルールを決めて使用しています。

学びを効果的に サポートする設備



全教室にWi-Fi
アクセスポイントを整備



最新ICT機器を備えた
JOTOLAB（ジョトラボ）



月～土曜日に自習に
使えるラーニング室



授業でも活用できる図書館整備